

授業科目名	クリティカルケア看護実習Ⅰ <i>Practicum in Critical Care Nursing I</i>		担当教員		
開講年次	2年通年	セメスター	3・4	時間数(単位数)	225(5)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	集中ケアを必要とする患者とその家族に対する高度で専門的な看護実践能力を獲得するとともに、専門看護師の役割である実践、相談、調整、倫理調整、および教育のための基礎的能力を養う				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護過程を論理的に展開し、適切な臨床判断のもと看護ケアを提供することができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者の身体的・心理的・社会的状態について、専門的なアセスメントができる。</li> <li>2) 患者の身体的問題を効果的に解決し、苦痛緩和を図ることができる。</li> <li>3) 患者の心理・社会的問題に対し、効果的に看護介入することができる。</li> </ol> </li> <li>患者家族への心理的な援助を、理論を適用して実践できる。</li> <li>看護師の学習課題を把握し、教育計画を立案して指導することができる。</li> <li>看護師からの患者ケアに対する相談に対し、コンサルテーションを実施できる。</li> <li>チーム医療におけるコーディネーターとしての役割を認識し、実践できる。</li> <li>ポスト・クリティカル期または急性期リハビリテーションケアを受ける患者とその家族の健康問題に対し、効果的に看護介入することができる。</li> <li>自己の看護を評価し、今後の課題も含めて考察できる。</li> </ol>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>実習場所 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小倉記念病院 ICU など</li> </ul> </li> <li>実習内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・急性疾患により生命の危機状態にある患者や、大手術後の患者などを受け持ち、看護実践をおこなう</li> <li>・可能な限りポスト・クリティカル期または急性期リハビリテーションケアを受ける患者への看護実践も経験する</li> <li>・受け持ち患者に対する看護計画をカンファレンスで発表し、指導看護師の助言を受け、より適切な看護ケアを提供する</li> <li>・到達目標の達成に向け、コンサルテーションや倫理調整を専門看護師のスーパーバイズを受けながら活動する</li> <li>・自己の実践内容を評価し、文献的知見も含めて考察する</li> </ul> </li> </ol>				
学習方法	クリティカルケア看護特論Ⅰ～Ⅲ、クリティカルケア看護演習Ⅰ～Ⅳ、および共通科目での学びを十分に復習したうえで、実習に臨む必要がある。また実習終了後は、受け持った全ケースの看護展開を再検討し、実習終了後の発表会において成果を報告できるよう準備する。担当教員によるスーパーバイズを週に1回以上受けながら実習を展開していく。その他、注意事項などは実習要項を参照すること				
オフィスアワー					
テキスト	クリティカルケア看護特論Ⅰ～Ⅲ、クリティカルケア看護演習Ⅰ～Ⅳ、および共通科目で配布された資料				
参考文献	クリティカルケア看護特論Ⅰ～Ⅲ、クリティカルケア看護演習Ⅰ～Ⅳ、および共通科目で紹介された資料				
評価方法	看護実践内容(25%) 実習記録(25%) 実習中のカンファレンスや実習後の発表会でのプレゼンテーション内容(50%)				